

学芸員養成課程における オンライン授業の 実践技術開発研究

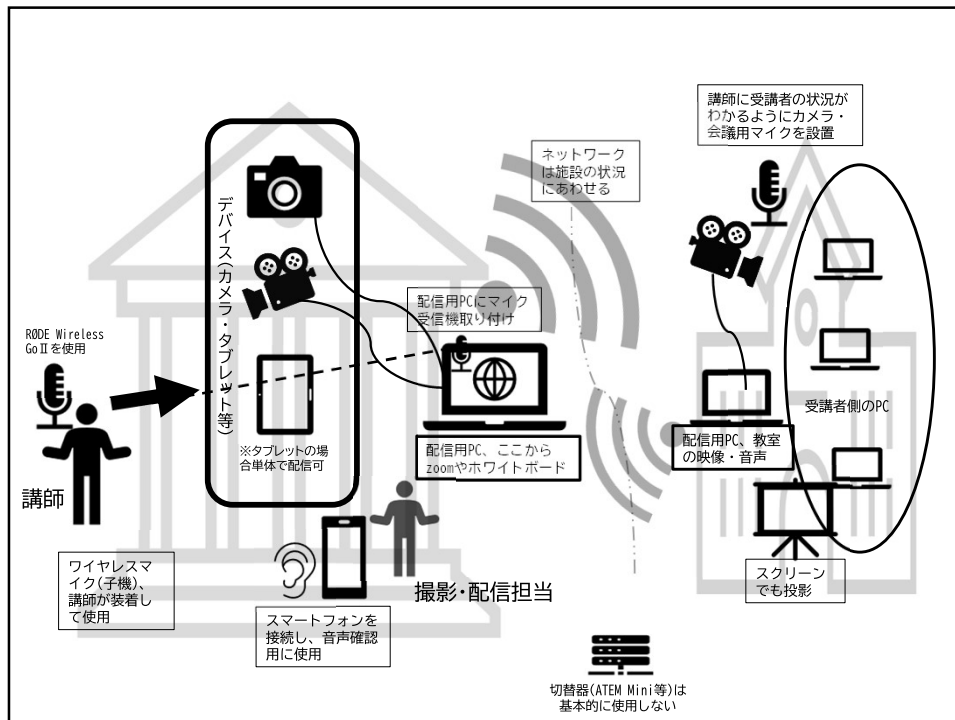
山内利秋(九州保健福祉大学)
甲斐由香里(三重県総合博物館)
青井美保(高鍋町美術館)
川久保晶博(九十九島水族館海きらら)

1

オンライン化の普及と

- 大学－博物館間の遠隔授業は従来までは高コスト、オンライン化が一気に普及した事で双方向的な授業の実現が広く可能となった。
- 交通アクセスの問題から見学が限られる地方大学では、有効なツールとなる可能性。
- 本研究ではオンラインツール等を、<よりシンプルに>活用しながら、実習・演習系科目における授業実践形態の開発を目指す。

2



3

授業の内容。

- 高鍋町美術館
展示室－教室間での対話型鑑賞をベースとした授業。
- 三重県総合博物館
展示室の環境管理をテーマ。学芸員の課題に対しグループディスカッション⇒発表。
- 佐世保水族館海きらら
育成に焦点をあてながらクラゲやイルカ等の飼育・展示施設を移動。飼育担当が問題を出し、答える。

4



高鍋町美術館

- 複数の作品間を移動しながら学生が対象を細かく観察できるようにするため一眼レフカメラに有線(USB)でPCに接続し、映像に一定のクオリティを持たせた(音声はワイヤレスマイクを使用)。
- 学芸員の移動に対して手持ちカメラの操作の難しさや有線ケーブルの取扱いの困難。撮影対象がブレ。受講生からも指摘された。

5



三重県総合博物館

- 学芸員がタブレットを使って移動・解説をしながら学生に対して課題を出し、グループディスカッションを経て回答を発表。
- 館内が比較的広く複数の展示室があるため比較的移動を伴うが、どうしても館内wifiの強弱から音声にノイズが発する等の問題。学生からもこの事の改善の必要性が出されている。

6



九十九島水族館海きらら

- 施設内での空間移動が比較的多く、館内にwifiが届かない範囲⇒中断を踏まえた上でポケットwifiをタブレットに接続し中継。
- 育成に焦点をあてながらクラゲやイルカ等の飼育・展示施設を移動。飼育担当が問題を出す形式とした。
- 途中の中断をディスカッションや休憩時間帯としたが、再接続に時間を要する等の難しさ。

7

受講生の感想

- 保存、管理の観点からの展示物の見方が大変参考になった。
- 博物館資料の保存について質問ができ、実際に現場で行えることを知り理解力を高められた。
- 資料を保存するための工夫が色々考えられている博物館だと思った。いつか実際に見に行けるといいなと思った。
- 学校にいながら遠い場所の博物館の様子や、学芸員の方の話を聞けるのは大変良いと思いました。
- 実際に来館して説明を受けているかのようでよかった。

8

- バックヤードは本来現地で行ってしか見られず、昨今のコロナの状況等を鑑みても中々見れるものでもないが、中継形式では可能で、実際の様子分かりやすくとても良い形式だと感じた。
- バックヤードをメインとして見たので学ぶことが多かった。サメの卵の形とクラゲの餌の中でクラゲも食べる内容に驚いた。
- イルカの生態や、水族館で行われてる飼育管理について詳しく知ることができ、とても興味深い内容でした。
- 実際に飼育員さんに聞かないとわからないようなお話を聞く事ができてとても楽しかったです。
- イルカのトレーニングの仕方など、実際に動作や場所を見れたのが分かりやすく良かったですと思います。

9

まとめ

- 施設規模・施設形態・授業内容といった様々な条件で機材編成や中継技術の違いが求められる。
- これらの相違が学生の理解度等にどのように影響するかを検討していきたい。
- 特に、できるだけ館園に負荷をかけない方法を重視したい。

10

終